

日置町健康づくり 標語入選作決まる

各部落長さんを通じて、町内全般の皆様方より健康づくり標語募集しましたところ、多数の方より応募いただきました中で、二位までを選考するため、町健康づくり推進員代表者によって審査された結果、次の方の標語が選ばれましたのでご紹介いたします。

◎健康は明るい町の第一歩

日置町古市 宮崎三郎さん

◎さあやろう各自各自で健康管理

日置町黄波戸 三輪 修さん

ご存知ですか

行政相談

行政週間10月20日～21日

行政管理庁では、きたる十月十四日から十月二十日までの一週間、行政相談週間を実施します。役所の仕事について、苦情、要望、意見をお持ちの方は、山口行政監察局（山口市中原町六十六・☎二一五九〇）又は、行政相談委員 松尾勇氏（大内山上・電三四二二）にお気軽にお申し出下さい。「無料」「親切」「秘密」でご相談に応じます。

行政相談日

十月十五日（月）

九時～十四時

環境改善センター

十月二十日（土）

九時～十二時

黄波戸公民館

新 版

景十八日置

第15景

古城趾「上城」と「大内山城」

一、まぼろしの大内山城
「愛に大津郡大内山の城には千崎石見守宣冬となんいえる者筈居羅りありたるが……」これは中世のふる里合戦記、大内山落城之事に見える書き出しの文句であり応永年間、大内盛見時代、譜代の士、千崎宣冬が、傾国の美人を利用して主家乗取りを企み、事前に露見して、合戦の末落城、見島に流罪となった話が載せられている。さて、その大内山城はいづこにあったか解らない、あったとすれば地形上「台山」ではなからうかと思われるが今だに確証がつかめない、幻の城である。大内山部落はこの台山の四囲に拓けた豊かな穀倉地帯で日置の中央平野とは少しかけ離れ、然も昔は交通の要路であったので、豪族が居て城



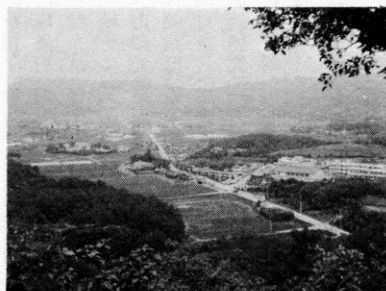
国道から見た大内山の台山

を構えていたとしても当然と思われる「地下上申」の地名考には「大内家の御妾腹の若達四人の住居の所から大内山と名づくとの意味が読まれる、地名学者高橋文雄著「続山口県地名考」には大内山と

大内氏を結びつけることは文字に合わせた附会で信じ難いといっているが、新市台岸寺の由緒には大内義隆の遺臣の開基とあり、必ずしも附会と断言もできぬ。大内山附近の小字名にも、鎌倉、矢倉、浜射場等々、軍事に関係ありそうな地名、台山の長者伝説、柱松神事、古屋敷の門名、各所に散在する五輪の石等考えさせられる事柄が多い。古き時代の歴史を秘め、長い星霜と栄枯盛衰の人間葛藤の絵巻の中に史実は次第に風化して大内山城も今では仮想の城を脱すすべもない。

二、上城の城山

『草燃える』のテレビ放送も次第に佳境に入り、源家の内紛に尼御台政子の手腕が発揮されつつあるが、わが日置史にも内紛にからまる一コマがある。北條氏を主軸とする御家人等の覇権争いと公武の暗斗の中に頼朝は志ななばにして急逝、二代頼家、三代実朝の非業の最後と源家の正統は二十有余年の短日月の中に絶えて北條氏の天下となる。この暗斗史中の三代将軍実朝を暗殺してクーデターを起こした公暁に日置八幡宮々司である日置筑後守が与みしたため、日置氏一族は追放される、ここに高山藤四郎源包房が時の上城々主佐々木某（名前不詳なとも佐々木高綱の一族）なる者の推挙を受けて「日置庄諸社大宮司職」となり鎌倉の公認を得るのである。爾来高山家は連綿として今日に至っている。大宮司高山家筋は源家ゆかりの足利義兼より分け、尾張国より来って豊浦



上城山よりの遠望

郡高山の郷に住するを迎えたのである。

大内山落城（応永二〇年）のことが事実ならば、それは上城の城主が高山氏を推挙した（承久三年約二〇〇年後の合戦となる）。

かくして日置の地は中央舞台で演ぜられる歴史から遠く離れ、強力な地方豪族も発生せず従って血なまぐさい斗争史は終りを告げ地方文化史的に穏かな風土の中に治まって行くものと考えられる。上城城跡に立ちて眼下に展ける平和な日置平野の美しい眺めに時を忘れ昔を偲ぶことしばし、最後に実朝の和歌一首を掲げて非業の死をとげた彼の冥福を祈りたい。
「山はさげ海はあせなむ世なりとも
君にふた心われあらめやも」
この歌は戦時中は忠君愛国の歌として口ずさまれたが「草燃える」の時代に実朝は何を訴えたかったのだろうか？
羽仁記

「城跡に佇てばひろびろ里の秋」
「一望の穂並を風の渡り来る」
光田清松女